

令和4年8月24日

鳥の劇場「わくわく！おんがく！ワークショップ」について

担当：音楽部

【目的】

音楽がもっている「音を楽しむ」という音楽の原点に立ち返り、演奏やトークを介してコミュニケーションをとることで、新しい音楽の可能性を広げることを目的とする。東京芸術大学で音楽を専門的に学ぶ学生・卒業生が、青山学院大学の学生と協力し、子どもたちと演奏やトークでコミュニケーションを図る。

【日時】 令和4年8月29日（月） 3校時～4校時（90分）

【場所】 体育館

【参加アーティスト】

大柳 綾香（東京芸術大学音楽学部声楽家在学）

岡庭 歩美（東京芸術大学音楽学部声楽家卒業）

北澤 華蓮（東京芸術大学音楽学部器楽科（ヴァイオリン）卒業）

（青山学院大学社会情報学部附置社会情報研究センター特別研究員）

栗原 真葉（東京芸術大学音楽学部作曲科在学）

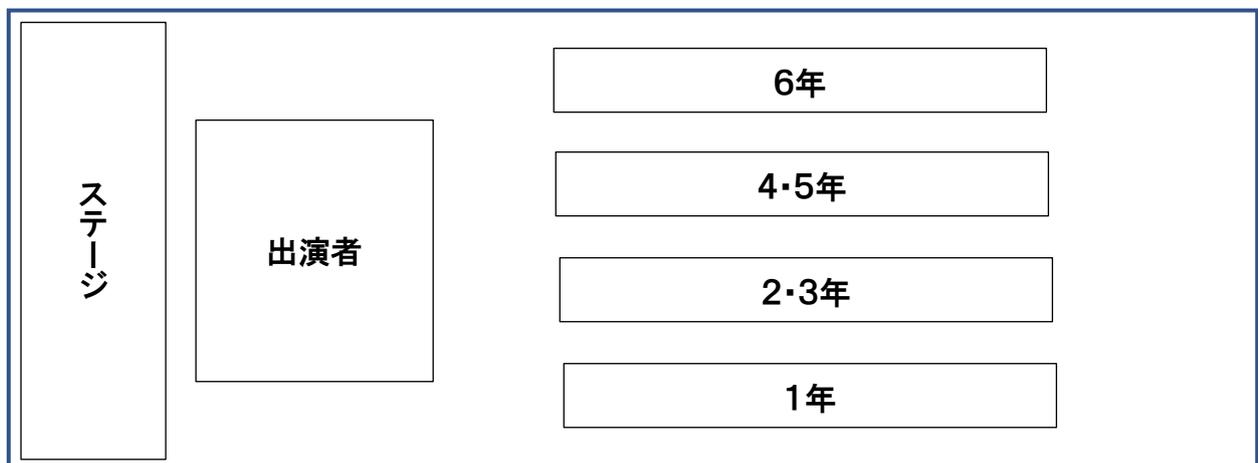
吉山 琳子（青山学院大学社会情報学部在学）

【準備物】

- ・移動式ホワイトボード 1台（谷口）
- ・スクリーン 1台（玉川、泉）

【役割】

- ・司会進行（谷口）
- ・写真（濱中、植田）



【実施内容】

ヴァイオリン・声楽（ソプラノ・メゾソプラノ）・作曲という演奏者4人の専門分野を応用したワークショップを行い、子どもたちの能動的な音楽への参加を促す。

〈主な流れ〉

1. 導入 再生停止ボタン
 2. ヴァイオリン「音楽に合わせて体が動く…!？」
 3. 歌「足してみよう・引いてみよう」
- 休憩
4. 作曲「生き物の1日を曲にしよう！」
 5. 4人で演奏「ふるさと」

1. 導入 音楽停止ボタン

参加児童の中から2名が前に出て、再生・停止のボタンを押すことで演奏を再生、停止でコントロールしてもらう。

その際に演奏する楽曲は「チャールダッシュ（ピアノとヴァイオリンによる演奏）」（モンティ作曲）

2. ヴァイオリン「音楽に合わせて体が動く…!？」

能動的に演奏を聴くワークショップ。体をゆるやかに揺らしながら演奏を聴き、どこで一步を踏み出したくなるか、というワークから始まる。従来のクラシック音楽のコンサートではできない「動きながら演奏を聴く」という体験をするパート。

3. 歌（ケンカ）「足してみよう・引いてみよう」

オペラ「フィガロの結婚」のワンシーン（No.5 ケンカの二重）を用い、それを構成する要素（歌・ピアノ伴奏・拍・音・演技など）を足したり引いたりすることで遊び、音楽の「多様性」を感じる。

4. 作曲「生き物の1日を曲にしよう！」

グループごとにそれぞれ動物をイメージして曲を作るワークショップ。

演奏には手拍子やハンドベルを使用予定。「楽譜やルールに囚われず、気づいたら音楽が生まれている」感覚を体験してもらう。

5. 4人で演奏

鳥取県出身である岡野貞一作曲「ふるさと」を歌う。